

# おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 22 号 (11 月 20 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県新人二回戦 日大の力強さに完敗

11 月 16 日 (土) 県新人の二回戦が行われました。山東の相手は日大山形。言わずと知れた強豪。地区新人では PK 合戦で辛勝したものの、後半は山東のシュート 0 本、日大のゴールキック 0 本という数字が示す通り、ほぼワンサイドのゲームであり、**山東の 1 枚も 2 枚も上であることは選手も重々承知**。ただ、あれから 2 カ月経っており、山東としてはその間の経験・トレーニングを活かしたい。場所は思い出深い米沢興譲館。**7 年前の平成 18 年度県総体 (今野赴任 1 年目)、準決勝で長井高校と対戦し、延長まで戦い、スコア 2 対 2 からの PK 合戦でしぶとく勝利したことが思い出される**。「あの時とはベンチと応援席の位置が逆だな〜」などと、あれ以来訪れていないにもかかわらず、記憶がよみがえる。試合前に清野会長とともに到着した後藤報道局長も、こちらが何も言わないうちから、「懐かし〜ね〜」とつぶやく。「あの時はコータローのヘディングシュート決まったんだっけが〜」、「延長の最後の最後に、正面の FK をヘディングですらされて (頭でちょっと軌道を変えられて) 同点シュート入れらったんだよね〜」。懐古はそのぐらいにして……。

さて、試合が開始されると、やはり日大の怒涛の攻撃。日大の選手の 1 対 1 の強さ、出足の鋭さ、セカンドボールを拾う意識と読み、いずれも素晴らしい。**何より自信をもってプレーしているため、落ち着いている。ボールを奪われない自信があるのでしょう。もちろん、日大伝統の縦に速い攻撃なのですが、選手がよく状況を観て《落ち着いて速く攻めている》という印象あり**。縦に速い攻撃を心がけると、ついついバタバタしてしまい、相手を苦しめるどころか攻めているこちらが余裕を失くしてしまいがちですが、日大の攻撃はやはり年季が入っている。前線の選手は積極的に裏を狙い DF ラインを下げさせ、裏を使うかと思わせて、その動きにより空けたバイタルエリア (DF ラインと MF ラインの間のスペース) にその前線の選手が戻り足元で要求、その選手に丁寧に入れられた楔のパスをダイレクトでアウトサイドの裏のスペースに入れる、というような、上下動の激しい、緩急使いこなす日大の攻撃に苦しめられる。**対する山東は、ボールの出所にも、縦パスにも、裏へのパスにも、いずれにも日大の選手以上にボールに寄せることができず、日大の攻撃をただ許している。日々のプレー強度の違いがゲームに如実に表れている**。そんな日大ワンサイドのペースの中、前半 10 分、日大 DF ラインは試合展開から高い位置取りをしている (攻めているから上がらざるを得ない) が、その高い位置取りの裏に蹴られた山東のアバウトなボールを日大 GK ゴメ弟が果敢に飛び出しヘディングでクリアする、しかしアンラッキーなことに (山東からすればラッキーなことに) ヘディングされたボールは米国 (邊克) ことカツミに渡り、**カツミ得意の山なりロングシュート!** 「あっ入った」と多くの人が思ったボールは、無情にも日大ゴール前で大きく弾み (弾み過ぎ!)、ゴー

ルバー上へ逸れる（恐らくギリギリの逸れと思います）。「入ったと思った〜」「（入らなかったとはいえ）さすがシュート職人カツミだな〜」などどベンチで話していると、前半12分中央を突破され、複数人が絡む攻撃で山東ディフェンスがはがされ、失点。試合がワンサイドだけに苦しい失点。しかし、その直後、山東も盛り返し、**右サイドの攻撃からまたもやカツミにボールが渡り、ミドルのボレーシュート一閃！**「あっ入った」とまたもや思いましたが、ゴールとラインズマンが重なっておりよく見えない。ですがラインズマンの左側のゴールネットが揺れていないので、入らなかったのだと気づく。どうやらポストカバーに当たって跳ね返った模様。ともかくも、2分8分ほどの内容の前半は、その後山東がしぶとく粘り、**結局0-1で後半へ。**

後半も日大ペースに時折カウンターで攻める山東という構図は変わらず。なんだかんだで、日大の攻撃をいなして山東ペースかと思われた後半の中盤、日大の選手のシュートが山東DFの手に当たったとこのことで**PK献上**。このプレー、至近距離からのシュートが手に当たったわけで、「ボールに反応して故意に触った」わけではないにしても、上方にやや上げられた手に当たってしまったわけで、やや厳しい判定ながら「手を上げてブロックにいった（故意に触りにいった）」と解釈されても仕方がない。山東ピンチ。しかし、**われわれには守護神GKケッツンがいる！！**なんて書きましたが、「そんなにうまくいくかい」と冷静に見ていると、右に飛んだケッツン、ボールを弾いてる！！ **山東に流れを呼び戻すビッグプレー**。さあ、あとは粘っているGK・DFに対し意気を感じて攻撃陣が奮起する番だ〜、と思われましたが、攻撃陣の横パスを奪われ、日大の逆襲一発炸裂し、0-2へ。その後も、別のDFがハンドしてしまい、**またもやPK献上**。どこからか「外したら坊主だ」の声がかかるも、先ほど外した選手は現時点で坊主頭であり、観客席から笑いが起きる。すると、また別のところから「真ん中に蹴ればいいんだ」の声。「その通り」と思わずベンチでつぶやいてしまいました（あとで聞いた話ではゴメ父の発言だった模様）。そんな、勝負は大体ついて、日大観客席に笑いが起きる余裕の中、今度はPK決められ、0-3。そして、何だかんだでタイムアップ。後半はCKのゴタゴタからタツルのジャンピングインサイドキックが炸裂しかけたのが一番の見せ場と言ったら見せ場で、あとは山東にとって「見るべきものがない」後半でした。**やはり、日大との間には確かな実力差があった、今度ばかりはごまかしがきかなかった、**というのが、正直な印象です。

遠くまで、応援ありがとうございます。その後、結局県新人は、羽黒と日大が決勝を戦い、延長戦の末に、羽黒が優勝し、羽黒高校1校が東北新人に出場すること（以前と比べ東北大会は縮小されました）。羽黒高校の皆さん、頑張ってください。というか、それ以上に、**選手権初出場の米沢中央の皆さん、山形の代表として頑張ってください。応援していますよ！！！！**

さて、残すは1年生大会ばかりとなりました。今年は、昨年一年生大会初戦で当たった上山明新館と同様、**9名で臨みます**（今年山東の1年生の部員は9名のみ）。平成21年の1年生大会はギリギリ試合が成立する7名で臨み、初戦山南戦で先制した、という「栄光の歴史」の例もあります（結局1-4で負け）。1年生の皆さん、頑張りましょう！保護者の皆様、応援よろしくお祈りします。

**11月23日（土）村山地区1年生大会1回戦 VS 山形南 @山形商業G 9:30~**  
**勝てば 同日 2回戦 VS モンテと山商Aの勝者 @同上 14:10~**